

小学校全校児童ワークショップ

140名 PTA主催 全校

- 日時:2014.10.18、13:10~15:15
- 場所:福島県村立小学校、体育館にて
- 対象:全校児童86名+保護者&先生64名=140名によるワークショップ
- 講師:みらい育ティーチャー3名
- 絵本「じっとみて。」の制作



目標 : PTA活動の行事(秋の祭り)として、全校児童が学年間を超え、より良い交流を目指します。

- ・自分が主人公の絵本を作ることで、自分を発見・再確認し、「今を頑張りたくなる気持ち」を育む。
- ・1年生~6年生まで縦割りグループで、学年間を超えた交流を通して、思いやりや優しい気持ちを感じ合う。
- ・絵本を通じて、自己開示したり、されたりすることで、自己肯定感、他者肯定感、多様な価値観について感じ取る。

ワークショップ風景



① こんにちは!
全校生徒+保護者のみなさんが講堂に一同に集まりました。これから始まるワークショップの内容説明に140名の参加者が真剣に耳を傾けています。何が始まるのか期待に胸を膨らませています。



② ウォーミングアップ
表紙のイラストで、残像トレーニングをしました。誰もがみんな20秒間×2回、集中する時間を持ちました。「おお、みえた!」「え〜、ぜんぜん見えないよ。」の歓声がわき上がる中、絵本制作スタートです。



③ 制作開始

まずは、はじまりのタネのシーンから制作です。目を閉じて、自分自身の内面をじっとみつめてイメージを探しに出かけます。思考の冒険が始まりました。

イメージが浮かび、描きはじめる。集中力がマックス状態になっていきます。どのように考えたらいいか、よくわからない児童には、ティーチャーが個別に対応し、全員描くことができました。



④ 絵本の交換

「ねえねえ、感想書いてー」「じゃ、交換ね」とみんな楽しそうです。絵のできた人から積極的に絵本を交換し合って感想を書いてあげたり、書いてもらったり、グループ内で交流します。「ほめてあげましょう」の声かけは一切しませんが、書かれる感想は自ずと全肯定です。ですから、他者の感想は自分にとって、とても嬉しいものとなります。自己肯定感をさらに高める大きな要因です。このほめてもらいたい気持ちは、積極的な行動への原動力となり、より多くの人からの感想を求めて、他グループとの交流が盛んに行われました。

←自分の絵に感想を書いてもらう間、他者へ感想を真剣に書き込んでいます。立ち上がっているのは、移動中のため。このあとも、積極的に他グループと交流していきました。

←自分の絵を誰かに話したい気持ちは新たな行動を生み出しました。先生のところへ自ら出向き、お話しています。

⑤ 発表

「世界にたった一冊の絵本」が完成!2人1組になって発表した後、みんなの前で発表したい人が挙手後、自主的に前方ステージへ出てきました。「あれ?女子がない?」と気づいて恥ずかしそうに退却している微笑ましいシーンです。

作品介绍/小学5年生男子



冷たく、すごく固いというイメージの中にも中央のピンクの芯がやさしさを主張しています。



冷たいイメージは完全に消え去り、やさしさであふれる純度の高い自分が表現されました。

エピソード①



じっとみて。のキーワードで突然じっとみつめあう男子児童2名。楽しんでいる様子が伺えます。

エピソード②

ねえ、みてみて! 娘の絵本なの。

反省会にて。我が子の絵本が愛おしくて見せたい気持ちを抑えられないママの姿です。宝物になりました。



感想

- ・ながいページがよかった。たのしかったです。(6歳)
- ・とてもたのしくなった。すごくいい本になった。(7歳)
- ・自分のことが分かったのでよかったです。(8歳)
- ・息子が喜んで考えていたと思います。カラフルな絵を描いていたことが嬉しく、驚きました。(8歳男児母)
- ・自分の中をみて、自分でこうなんだな、とわかりました。(9歳)
- ・いろいろな所から自分を見つめる事で、これまでの自分を知ることができた。自分の良い所や悪い所なども知れてよかったです。(10歳)
- ・私は、絵があまりうまくなくて、今日、自分の絵をかいてみたらへたじゃないと思いました。(11歳)
- ・自分で絵本を作ったことはあったけど、自分を見つめて書くのははじめてだったのでたのしかったです!(12歳)

アンケート集計

